

第3期

平成25年度

報告書

(平成25年4月1日～平成26年3月31日)



サノヤスホールディングス

証券コード：7022

「自立・自律」で 大変化・大競争時代を 勝ち抜く

株主・投資家の皆様には、平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

サノヤスは平成24年1月に持株会社・分社化による会社組織の再編を行い、創業第二世紀へと船出しました。グループの事業は造船業をコア事業とする一方、それ以外の様々な事業を第二のコア事業と位置付け、バランスのとれた事業体を目指しています。

この4月に、グループ全社の部長クラスをメンバーとする社長直轄の「経営革新プロジェクトチーム」を立ち上げました。グループの中長期戦略を検討するとともに次世代の“人づくり”を実践してまいります。

グループ全18社の 役職員各人が目標を達成し、各社が“自立・自律”すべく果敢な挑戦を続け、この厳しく難しい“大変化・大競争時代”を勝ち抜いていく所存であります。



代表取締役社長

上田 孝

3つのポイント

- 1 減収減益も円安、コスト削減効果で当期純利益は2.3倍に
- 2 メルボルンの大観覧車を買取り、海外でレジャー事業を開始
- 3 「技術力」「現場力」「コストダウン」を決め手に勝ち抜く
—スプラマックスを中心に受注確保、約3年分の受注残を保有—

減収減益も、当期純利益は2.3倍に

サノヤスがホールディングス体制に移行して3期目となる平成26年3月期の連結業績は、売上高が466億96百万円(前期比20.9%減)、営業利益は33億54百万円(同23.9%減)、経常利益は34億2百万円(同22.2%減)、当期純利益は9億70百万円(同127.6%増)となりました。

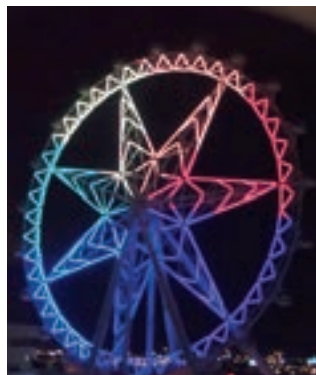
売上高の減少は、造船事業の落ち込みが反映されており、これは受注を多く抱えることのリスクをふまえて、あえて操業を落とすスローダウン施策を取ったことによるものです。

利益面では期初見通しを大きく上回りました。これはサノヤス造船で想定以上の円安効果の恩恵を受けたこと、一般管理費等の25%削減を目指す「スリムアップ25」運動が実を結んだことによるものです。

メルボルン・スターを買収し、営業を開始

平成26年3月期におけるサノヤスグループ最大のトピックスは、レジャー事業において、オーストラリアの大観覧車事業(メルボルン・スター)を買収し、営業を開始したことです。

5年半前に観覧車を製造、納入した直後に損傷が発覚し、その後、多額の修繕費用が発生しました。しかし、修繕を終えた観覧車をグループ事業に取り込み運営を手がけることで今後は前向きな戦略事業へと転換することになります。



LEDライトアップしたメルボルン・スター



オープニングセレモニーでのスピーチ

サノヤス・エンジニアリングにおいては古河産機システムズより立体駐車装置の事業を買収したことにより、アフターサービスの受託規模が拡大しました。以上の事案をはじめ、いわゆる「第2のコア」事業については自立から発展に向けての動きが出てきたことに手応えを感じています。

造船事業は 「技術力」「現場力」「コストダウン」

今、海運・造船業界は「船腹の過剰」と「建造能力の過剰」という二つの過剰に直面しています。この二つの過剰は今後も常態化するという前提に立ち、受注方針については為替や景況、需給のリスクをふまえて柔軟に対応するとともに、生産については、収益性と受注残を調整すべく操業をスローダウンしており、環境の変化に即座に柔軟に対応できる体制で臨んでおります。

そのために、省エネ性能の実現をはじめとする「技術力」、多能工化にも対応する「現場力」、設計段階からコストを造りこんでいく「徹底したコストダウン」をテーマに掲げ、取り組みを進めています。

現在の船種としてはパナマックス(82千重量トン)、ハンディーケープ(117千重量トン)に加え、昨年はスプラマックス(60千重量トン)を市場に出しました。マーケットを見ながらこれら既存船のブラッシュアップを進めていく一方で、市場調査を行い、新たな船としてポストパナマックスの開発を進めているところです。

3月末時点での新造船受注残は23隻で、今後も3年程度の受注残をベースに受注を果たしてまいります。

経営革新プロジェクトチームで人づくり

企業の持続的成長を支えるには環境変化への「しなやか」かつ「したたか」な対応が欠かせません。そのため企業は、経営革新への取り組みを日々継続実践し、経営戦略に結び付ける不断の努力が求められます。

今年4月に社長直轄で「経営革新プロジェクトチーム」を発足させました。造船、陸上、レジャーの事業会社を含め40代から50代前半にかけての各部門の部長クラス38人を集めて、すでに数回の会合を開きました。自分たちが5年後、10年後にサノヤスをどうしていくのかを考えてもらい、年内に次

期中期計画策定に向けた方針を決定します。会社の将来を自分のこととして考える習慣をつけるという意味では、まさに人づくりのための経営革新でもあります。

平成26年3月期の期末配当につきましては、企業体質強化に努めながら、業績に対応し安定した配当を維持、継続するとの基本方針の下、1株当たり5円とさせていただきます。

次期の連結業績見通しにつきましては、売上高475億円、営業利益14億円、経常利益10億円、当期純利益5億円を見込んでいます。

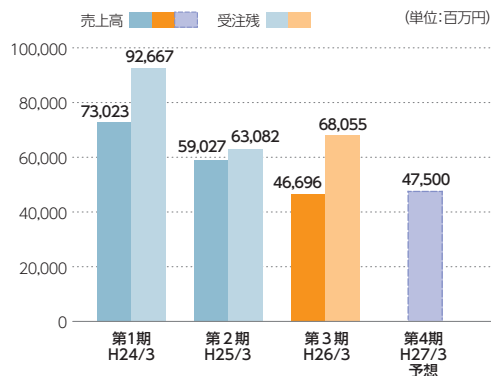
株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご支援を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。



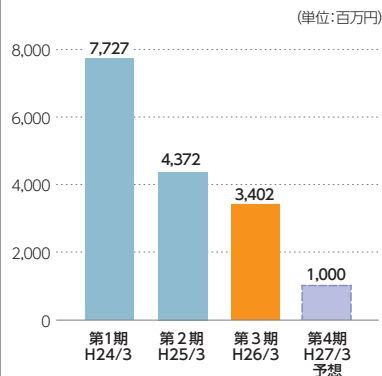
(単位：百万円)

	第1期	第2期	第3期	前期比
	平成24年3月期	平成25年3月期	平成26年3月期	増減額／増減率
経営状態				
売上高	73,023	59,027	46,696	△ 20.9%
営業利益	8,009	4,407	3,354	△ 23.9%
経常利益	7,727	4,372	3,402	△ 22.2%
当期純利益	1,236	426	970	127.6%
受注残	92,667	63,082	68,055	7.9%
財政状態				
総資産	73,170	69,454	69,022	△ 432
純資産	15,482	16,193	17,189	996
自己資本比率	20.0%	22.1%	23.8%	1.7%
1株当たり指標				
当期純利益(円)	37.94	13.09	29.80	16.71
純資産(円)	448.22	470.43	504.45	34.02
配当金(円)	5.0	5.0	5.0	0.0

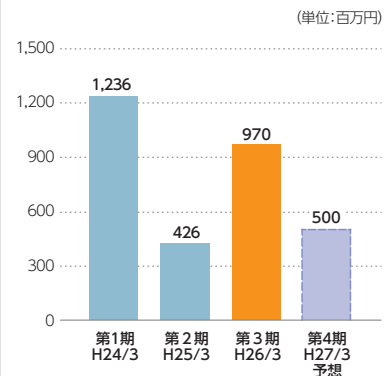
売上高・受注残



経常利益



当期純利益



造船事業

平成26年3月期 **売上高** 325億15百万円

当期の造船事業を取り巻く環境は、船腹及び製造設備の過剰が依然として大きく、船価の回復は緩慢なまま推移しました。このような状況下、省エネ型バルクキャリアに対する需要をターゲットとして、3年程度の受注残高を確保する方針のもとに営業活動を進め、82千重量トン型パナマックス・バルクキャリア及び新規開発した60千重量トン型スプラマックス・バルクキャリア等10

隻の受注を確保しました。その結果、当期末の受注残高は約3年分の661億26百万円となりました。

新造船の引渡は、78千重量トン型並びに83千重量トン型パナマックス・バルクキャリア4隻、104千重量トン型並びに120千重量トン型ハンディーケープ・バルクキャリア各1隻、及びチップ船1隻の合計7隻であり、修繕船等を加えた当該事業の売上高は、リーマンショック後



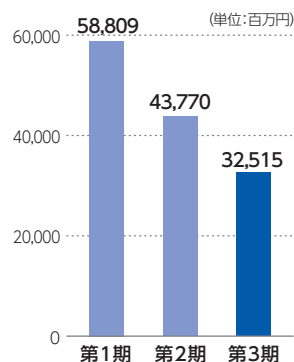
120千重量トン型ハンディーケープ・バルクキャリア
(サノヤス造船㈱)



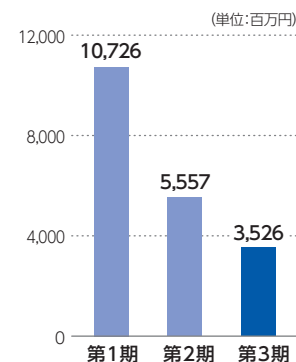
83千重量トン型パナマックス・バルクキャリア
(サノヤス造船㈱)

に受注した船価の比較的低い新造船が売上計上になったこと及び建造隻数の減少等により前期比112億55百万円(25.7%)減少の325億15百万円、連れて営業利益は前期比20億30百万円(36.5%)減少の35億26百万円となりました。

売上高



営業利益



スプラマックス・バルクキャリアー開発

サノヤス造船株式会社は、新造船の主力商品として新たに開発した60千重量トン型スプラマックス・バルクキャリアーを商品メニューに加えました。本船型の開発にあたっては、国内外で市場調査を繰り返し行うことで、顧客の求める性能や仕様を的確に把握し、積載能力、燃費・環境性能のバランスのとれたデザインを追求しました。特に燃費性能に関しては、新型エンジンの採用や当社独自の船型改良、省エネ装置とのマッチングによって、CO₂排出量の規制値に対し25%削減というトップ水準を達成しています。第一船は平成28年の完工を予定しています。



サノヤス造船(株)建造のハンディマックス・バルクキャリアー
(スプラマックス・バルクキャリアーより一回り小さい船型)

陸上事業

平成26年3月期 **売上高** 96億8百万円

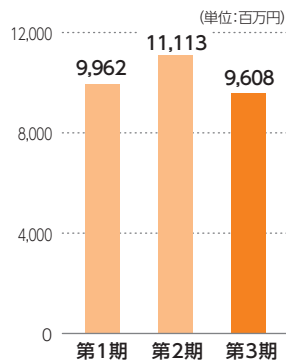
建設工事用機械製造・レンタル、機械式駐車装置製造・保守、機械部品製造、化粧品製造用機械製造、自動車部品製造、空調・給排水・環境工事等を行う陸上事業においては、回復傾向にある国内民間設備投資に対応し、積極的な受注活動に努め、当期末の受注残高は14億99百万円となりました。売上高は、前年度が14箇月であった事業会社が4社に及んだため、前期比15億5百万円(13.5%)減少の96億8百万円となりました。連れて、営業利益は、前期比2億81百万円(33.0%)減少の5億71百万円となりました。



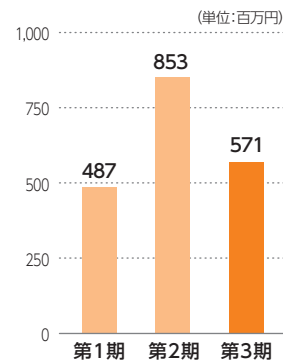
ユニバーサルジョイント (ケーエス・サノヤス(株))

※自動車等の部品に使用します。

売上高



営業利益



真空乳化装置750型、400型 (みづほ工業(株))

※化粧品等の開発・生産に使用します。

立体駐車装置の事業を買収し、収益を強化

機械式駐車装置の製造等を手掛けるサノヤス・エンジニアリング株式会社は、平成26年1月24日、古河産機システムズ株式会社より立体駐車装置のアフターサービス事業及びこれに付随する事業の権利義務等を会社分割により承継する契約を締結いたしました。（同年4月1日より効力発生）

当社グループの第二のコア事業の一つである陸上事業を強化するべく、その主力会社の一つであるサノヤス・エンジニアリング株式会社が、メンテナンスのみならずこれまでに製造・販売された装置のアフター

サービスを幅広く手掛けます。それにより、事業基盤の拡大を図り、中長期的な当該事業の成長と収益の強化を目指してまいります。



地上昇降横行式駐車装置

太陽光発電事業を開始

平成26年3月20日より、加藤精機株式会社は太陽光発電事業を開始いたしました。兵庫県多可郡に所有する約1万㎡の土地に、太陽光発電パネル3,220枚を敷設し発電するもので、昨年10月に工事着工し、この度事業開始の運びとなりました。

当該設備の大きな特徴の一つに管理会社による遠隔監視システムがあり、24時間365日の発電設備データログ監視により、インターネット環境が有る場所では何処で

も発電状況の確認が可能であるのと同時に、異常値検知時における速やかな現場対応も可能にしています。



多可町太陽光発電所

レジャー事業

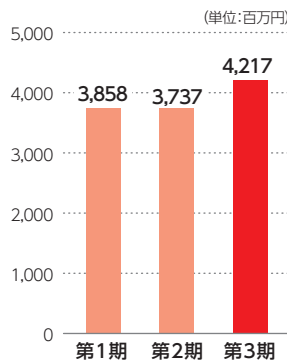
平成26年3月期 売上高 **42億17**百万円

遊園機械製造及び遊園地運営等を行うレジャー事業においても顧客ニーズに対応した営業活動に努め、当期末の受注残高は3億48百万円となりました。売上高は、保有運営していた遊具の一部を売却したことによる運営収入の減少を、国内での観覧車をはじめとする遊戯機械の販売とメルボルン観覧車営業開始による増収で賄い、前期比4億80百万円(12.9%)増加の42億17百万円となりました。営業損益については、メルボルン観覧車の保証工事引当金は前期より大幅に減少したものの、同観覧車取得と運営会社の買収、開業資金等の費用が高んだため、営業損失2億9百万円(前期実績は14億65百万円の営業損失)となりました。

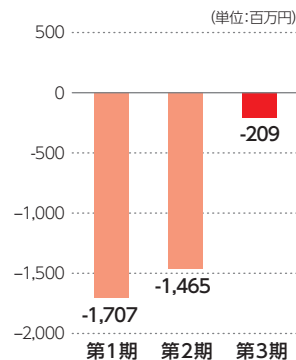


東武動物公園「レディ・バード」 (サノヤス・ライド株)

売上高



営業利益



熊本市動植物園「どんぐりティーカップ」
(サノヤス・ライド株)

メルボルンにて大観覧車が営業を開始

平成25年12月23日、オーストラリアメルボルン市の大観覧車「メルボルン・スター」(“Melbourne Star Observation Wheel”)の営業運転を開始いたしました。(運営は豪州子会社のSanoyas Rides Australia Pty Ltd が担当)

「メルボルン・スター」は、オーストラリアの国旗にある「七稜星」(6つの州と1つの準州を象徴)にちなみ、回転輪は放射状に伸びた7本のアームとリング状のリムで構成されたデザイン的にもユニークな構造であり、回転輪部分に取り付けられたLEDは、放射状に伸びたアーム構造を活かし、多彩な演出ができるイルミネーションを備えます。乗物(キャビン)は全21台で、1台20人乗りの定員420名であり、1周約30分で運行し、直径は



大観覧車「メルボルン・スター」
(Melbourne Star Observation Wheel)

キャビンを含め約110m、地上からの最高到達点は117.55mにも達します。

南半球最大の観覧車として話題性は十分で、メルボルン市街を一望できるキャビンからの眺望は、搭乗されるゲストにとって価値ある体験になることと確信しており、近隣の商業施設の活性化とあいまって国内外の観光客・地元の買い物客・家族連れの訪れる新名所になるものと期待しております。

オーストラリア第二の都市であるメルボルン市という商圏面での好立地を活かし、現地での観光産業振興の期待と後押しを受けて、当社グループの海外展開の第一歩として十分なパフォーマンスを実現できるよう注力してまいります。

連結貸借対照表(要旨)

科目	金額 (単位:百万円)	
	平成25年度末 (H26.3.31)	平成24年度末 (H25.3.31)
資産の部		
流動資産	42,747	47,090
現金及び預金	21,404	27,712
受取手形及び売掛金	17,758	14,821
商品及び製品	126	159
仕掛品	814	1,069
原材料及び貯蔵品	657	549
繰延税金資産	18	694
その他	1,989	2,103
貸倒引当金	△22	△19
固定資産	26,275	22,363
有形固定資産	19,419	16,160
建物、ドック船台及び構築物	7,354	6,986
機械装置、運搬具及び工具器具備品	6,760	4,013
土地	5,232	5,060
建設仮勘定	72	99
無形固定資産	597	636
投資その他の資産	6,258	5,567
投資有価証券	5,168	4,311
長期貸付金	77	93
繰延税金資産	218	230
退職給付に係る資産	76	—
その他	896	1,178
貸倒引当金	△178	△246
資産合計	69,022	69,454

科目	金額 (単位:百万円)	
	平成25年度末 (H26.3.31)	平成24年度末 (H25.3.31)
負債の部		
流動負債	27,414	31,264
支払手形及び買掛金	8,971	10,388
短期借入金	7,298	7,054
1年内償還予定社債	30	30
未払法人税等	103	886
前受金	6,569	7,210
賞与引当金	428	420
保証工事引当金	114	1,903
受注工事損失引当金	1,740	2,051
その他	2,158	1,318
固定負債	24,418	21,996
社債	—	30
長期借入金	16,844	15,241
退職給付引当金	—	4,241
退職給付に係る負債	4,522	—
役員退職慰労引当金	—	95
資産除去債務	437	450
繰延税金負債	2,205	1,730
その他	408	206
負債合計	51,833	53,260
純資産の部		
株主資本	15,067	14,259
資本金	2,538	2,538
資本剰余金	727	727
利益剰余金	11,807	10,999
自己株式	△5	△5
その他の包括利益累計額	1,366	1,066
その他有価証券評価差額金	1,683	1,068
繰延ヘッジ損益	△11	△2
為替換算調整勘定	23	—
退職給付に係る調整累計額	△329	—
少数株主持分	755	867
純資産合計	17,189	16,193
負債及び純資産合計	69,022	69,454

連結損益計算書(要旨)

科目	金額 (単位: 百万円)	
	平成25年度 (H25.4.1 ~H26.3.31)	平成24年度 (H24.4.1 ~H25.3.31)
売上高	46,696	59,027
売上原価	39,096	50,225
売上総利益	7,599	8,801
販売費及び一般管理費	4,245	4,393
営業利益	3,354	4,407
営業外収益	436	652
営業外費用	387	688
経常利益	3,402	4,372
特別利益	105	57
特別損失	1,350	372
税金等調整前当期純利益	2,158	4,057
法人税等合計	1,310	3,643
少数株主損益調整前当期純利益	847	413
少数株主損失(△)	△123	△13
当期純利益	970	426

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

科目	金額 (単位: 百万円)	
	平成25年度 (H25.4.1 ~H26.3.31)	平成24年度 (H24.4.1 ~H25.3.31)
2 営業活動によるキャッシュ・フロー	△2,360	△927
3 投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,437	△2,178
4 財務活動によるキャッシュ・フロー	1,534	5,156
現金及び現金同等物に係る換算差額	△53	80
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△6,317	2,130
現金及び現金同等物の期首残高	26,138	24,007
現金及び現金同等物の期末残高	19,821	26,138

ポイント

1 純資産・自己資本比率

当期末の純資産は、前期末対比9億96百万円増加し、171億89百万円となりました。また、自己資本比率は、前期対比1.7ポイント改善し、23.8%となりました。

2 営業活動によるキャッシュ・フロー

新造船の操業スローダウンに伴う仕入れ債務の減少や、豪州観覧車の修繕工事終了による保証工事引当金の減少、売上債権増加・法人税支払額等の減少要因が、税金等調整前当期利益・減価償却・減損損失等の増加要因を上回った結果、23億60百万円の支出となりました。

3 投資活動によるキャッシュ・フロー

豪州観覧車の買収等の有形固定資産の取得54億80百万円を主因として、54億37百万円の支出となりました。

4 財務活動によるキャッシュ・フロー

豪州観覧車の買収資金の一部を賄うため長期借入を行ったことから、借入が返済を上回り、15億34百万円の収入となりました。

会社概要 (平成26年3月31日現在)

商号	サノヤスホールディングス株式会社
設立	平成23年10月3日
資本金	25億3,800万円
従業員	従業員数 40名 (連結 1,553名) 平均年齢 40.9才
本社	〒530-6109 大阪市北区中之島三丁目3番23号
東京支社	〒100-0011 東京都千代田区内幸町一丁目3番3号
東京中央支社	〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町二丁目1番1号

株式情報 (平成26年3月31日現在)

株式の状況	発行可能株式総数	120,000,000株
	発行済株式の総数	32,600,000株
	株主数	3,026名

大株主	株主名	持株数(株)	持株比率(%)
	サノヤス共栄会	3,151,800	9.67
	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(三井住友信託銀行再信託分・住友重機械工業株式会社退職給付信託口)	2,145,000	6.58
	株式会社三井住友銀行	1,425,000	4.37
	ストラクス株式会社	1,402,000	4.30
	三井住友海上火災保険株式会社	1,123,000	3.45
	住友商事株式会社	1,000,000	3.07
	角田博	970,000	2.98
	住石マテリアルズ株式会社	920,000	2.82
	新日鐵住金株式会社	844,800	2.59
	中島秀樹	812,000	2.49

(注)持株比率は、自己株式(22,468株)を控除して計算しております。

役員一覧 (平成26年6月24日現在)

代表取締役会長	落合 諒	取締役	白神 敬治	執行役員	渡辺 義則
代表取締役社長	上田 孝	取締役	北川 治	常勤監査役	大屋 雄次
代表取締役 副社長執行役員	竹原 久雄	取締役	倉持 貴好	常勤監査役	桐野 恭至
取締役	中道 保信	取締役	前野 嘉孝	監査役	森 薫生*
取締役 専務執行役員	浅間 成人	取締役	谷口 哲郎*	監査役	平野 豊三郎*
取締役	衛藤 博司	執行役員	松本 裕之		
取締役 専務執行役員	山本 周平	執行役員	小島 孝夫		

*は社外役員を表します。

サノヤスグループ組織図



沿革

- 明治44年 4月 — 佐野安造船所創業
- 昭和15年 6月 — 佐野安船渠株式会社 設立(資本金150万円)
- 42年 6月 — 大阪証券取引所市場第2部上場
- 48年 4月 — 資本金14億3,000万円に増資
- 49年 1月 — 水島造船所操業開始
- 49年 2月 — 大阪証券取引所市場第1部上場
- 59年 8月 — 株式会社サノヤスに社名変更
- 平成 2年 10月 — 株式会社サノヤスと菱野金属工業株式会社が合併
- 3年 4月 — 株式会社サノヤスと明昌特殊産業株式会社が合併
株式会社サノヤス・ヒシノ明昌に社名変更
- 17年 4月 — 東京テクノセンター新設
- 19年 3月 — 資本金25億3,800万円に増資
- 23年 4月 — 創業100周年を機にコミュニケーションネームとして「Sanoyas」を設定
- 23年 10月 — 単独株式移転により持株会社 サノヤスホールディングス株式会社設立
- 24年 1月 — 持株会社 サノヤスホールディングスと事業会社による新組織体制をスタート
- 25年 7月 — 東証と大証の現物市場の統合にともない東京証券取引所市場第1部上場

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月開催
基準日 定時株主総会 毎年3月31日
期末配当 毎年3月31日
中間配当 毎年9月30日
その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

公告の方法 当社のホームページに掲載
<<http://www.sanoyas.co.jp/publicnotice/>>
やむを得ない事由により電子公告ができない場合、
日本経済新聞に掲載

単元株式数 100株

【株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出及びご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。

株主名簿管理人及び
特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
事務取扱場所 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先) 〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先)  0120-782-031
(平日午前9時～午後5時)

(インターネットホームページ)
<http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

サノヤスホールディングス株式会社

〒530-6109 大阪市北区中之島三丁目3番23号 TEL. (06) 4803-6161 (代)

